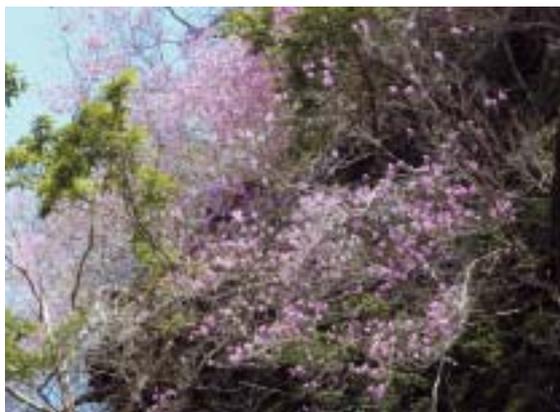


春を彩る「岩ツツジ」が満開

4月8日、村内各地の溪谷や山々に岩ツツジの花が満開となりました。中でも、国道265号沿いの仲塔溪谷は群生地として知られ、村内外から多くの方々が見物に訪れました。険しい山肌にしがみ付くように咲く岩ツツジ。岩の色と新緑に映えるピンク色の花は絵に描いたように鮮やかで、車を止めてシャッターを切る観光客の姿も見られました。花は1週間ほどで散ってしまいましたが、稚葉に春の訪れを告げる風物詩として、毎年多くの方々を楽しませていきます。



▲釣り人や観光客を楽しませた岩ツツジ

花公園「^{しのぶ}信夫の里」に春の訪れ

4月10日、「信夫の里」(水越地区、25ha)でスイセンとサクラの花が満開となりました。同公園は、名古屋で建築会社を営む高柳信夫さんの所有。十数年前から同所にサクラの植栽を始め、現在ではサクラ1万本、ツツジ2万本、スイセン6万株の県内有数の花公園になりました。40年前に仕事の縁で訪れて以来、「稚葉が第二の故郷」と語る高柳さん。年に何度も訪れては、管理人の稚葉亀則さん(水越)とともに花を増やし続けています。ここまで育てるにはかなり苦労をされたとのことですが、将来全国から「花を見るなら信夫の里へ」と言われるよう整備していきたいと夢を語りました。



▲年々充実してきている「信夫の里」

村長杯ゲートボール大会

4月14日、村総合グラウンドで毎年恒例となった村長杯ゲートボール大会が行われました。この大会は、健康増進とゲートボール競技の普及振興を目的に村ゲートボール協会(稚葉歳治会長)が主催。村内の愛好会やクラブなど21チーム120人が参加し、競技を楽しみました。

大会には村社会福祉協議会やJA日向稚葉支店、白鳥(向山地区)といった職域で構成された3チームも参加。例年以上に大会を盛り上げました。熱戦の末、村長杯では白鳥チームが優勝。クラブ対抗では松尾チームが優勝し、今年7月宮崎市で行われる県選手権大会の出場を決めました。



▲年の功、熟練のプレーが光りました

稚葉山の幸春の幸

4月中旬、村内各地で山菜の収穫が始まりました。今年は、昨年の台風被害の影響で収穫できるか心配されていましたが、例年以上に豊富。多くの家庭では、ワラビ、ゼンマイ、タラの芽、葉ワサビ、タケノコなど山の幸が食卓にあがりました。

また、各地区にある無人販売所に出された山菜は、立ち寄った観光客などに大人気で、どの販売所でもすぐに売り切れていました。「毎日食べていると飽きる」という方もいるようですが、いつまでも山菜が育つ環境であってほしいものです。



▲稚葉では日常的ですが都会では貴重な山菜